

第 72 回大阪市港湾審議会 幹事会 議事録

1 日 時

令和 5 年 1 月 11 日（水） 14 時 00 分～14 時 40 分

2 場 所

A T C I T M棟 10 階 大阪港湾局第 8, 9 会議室

3 出席幹事

財務省 大阪税関 総務部長 笠川 隆博（代理 総務部 企画調整室長 居初 康生）
国土交通省 近畿地方整備局 企画部長 奥田 晃久（代理 企画部 広域計画課長 大國 喜郎）
国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部長 北出 徹也（代理 港湾空港部 港湾計画課 課長補佐 正田 武史）
国土交通省 近畿運輸局 海事振興部長 大谷 晃正（代理 海事振興部 貨物・港運課長 山口 則夫）
大阪海上保安監部 次長 西澤 伸広（代理 航行安全課長 竹ノ内 哲郎）
大阪府 都市整備部 河川室 河川整備課長 濱田 雄一郎（代理 河川整備課 課長補佐 岩井 康隆）
大阪市計画調整局 計画部長 上溝 憲郎
大阪港湾局 総務部長 望戸 弘道
大阪港湾局 営業推進室長 田邊 朝雄
大阪港湾局 計画整備部長 高橋 寛

4 議 事

(1) 大阪港港湾計画の軽易な変更について

- ・事務局より説明

(質 疑)

(幹 事)

先ほどご説明いただいた資料の中の港地区に関する部分について、岸壁撤去後に対象船舶よりも大型の船舶が係留する場合の話を審議会の席で皆様に共有いただきたい。

(事務局)

先ほど説明させていただいたが、改めてご説明させていただく。港地区の辰巳安治川埠頭の対象船舶としては、2,000D. W. T となっており、対象船舶の回頭円を示している。

実際の運用においては、26,000D. W. T 程度の係留実績もあると聞いており、使用する係船柱、防舷材について接岸エネルギー等を検討し、着岸にあたり構造上問題ないということを確認している。また、回頭円についても、26,000D. W. T 程度の船舶の場合は、自力ではなくタグボートを併用することになるが、港湾の施設の技術上の基準に沿った船舶の全長の 2 倍の回頭円を確保できることは確認しており、航行安全上も問題ないと考えている。

(幹 事)

辰巳安治川埠頭については老朽化と説明があったが、いつ頃作られたものか。また、杭に亀裂等が発見されたとのことであるが、撤去範囲外の部分は問題ないか。杭の撤去を行うということであるが、全て撤去するのか、それとも一部は存置するのか。また、杭の長さはどの程度か、合わせて教えてほしい。

(事務局)

辰巳安治川埠頭については、昭和 43 年ごろに作られている。撤去範囲外の部分については、当然補修なども行われていると思うが、問題ないと聞いている。杭はパイプロハンマー工法等により全撤去すると事業者から聞いている。杭の長さについては、支持杭となるので数十 m になるが、改めて確認し回答※する。

※ 後日回答内容

撤去する杭は D.L. -30.3m まで打設されており、全長は 33.5m となっている。

(2) 港湾環境整備負担金負担対象工事の指定について

・事務局より説明

(質疑) なし

5 結 果

原案について特段の異議はなかった。

本日の結果は、令和 5 年 1 月 26 日開催予定の大阪市港湾審議会（専門部会）において、高橋幹事より報告を予定している。

6 会議資料

- (1) 大阪港港湾計画の軽易な変更について（素案）～説明資料～
- (2) 大阪港港湾計画書（案）
- (3) 大阪港港湾計画資料（案）
- (4) 港湾環境整備負担金負担対象工事の指定について（案）
- (5) 港湾環境整備負担金負担対象工事の指定について（案）～説明資料～